

新年度予算を予算特別 委員会で徹底審査!!

Q 介護基盤等整備事業ではどんなことを行うのか。

A 町内で3カ所目となる地域密着型サービスの「小規模多機能居宅介護施設」を1カ所、公募にて新設する。施設規模はデイサービスが25人、ショートステイが9人。

Q 放課後児童クラブの現状と対策は。

A 中央児童館に17人、上陽児童館に1人の待機児童がいる。対応策としては、小学校に残って見守りのボランティアで対応できないか学校と協議中。

Q 英語指導助手(ALT)を増員するのか。

A 全小中学校に英語指導助手を配置して、身近で生きた英語に接することにより英語力向上及び国際理解教育の充実を図る。

Q 文化センターの空調設備入れかえ工事はどんな工事を行うのか。

A 開館から22年が経過し、エアコンの冷温水機5台のうち2台が故障し、能力不足となっているので、この入れかえ工事を行う。



「玉村町版CCRC」「玉村町版生涯活躍のまち」「シニアタウン」について解説します。

「CCRC」(Continuing Care Retirement Communityの略)健康時から介護時まで継続的にケアを提供する共同体、という米国で普及する考え方で、これをもとに日本独自の「CCRC」として考えられたのが、「生涯活躍のまち(日本版CCRC)」構想で、「東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や『まちなか』に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に

Q 道の駅 玉村宿の来年度の取り組みはどのようなものか。

A 運営は農業公社に委託している。各種イベントや特売会等を開催し、売り上げの向上につなげたい。また、独自の特産品の開発も考えていく。

Q 東部工業団地から東毛広域幹線道路へのアクセス道である町道220号線の完成時期は。

A 東部工業団地の拡張計画と連動していきたいと考えており、国の交付金の状況にもよるが平成29年度には工事を完了したい。

Q 文化センター周辺まちづくり事業の投資経費は。

A 土地の買収費が約10億円、造成の事業費が約14億円で合計約24億円。この土地をトヨタウッドユーホーム(株)に約13億円強で売却予定で、町が直接販売する土地等が約5億円強となり、約5億6000万円の投資となるが、それ以上の経済効果が期待できる。



応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すというものです。

玉村町では、昨年12月に策定した「玉村町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で、ファミリー層からシニア層までの幅広い年齢層に対応する独自の構想として、「玉村町版生涯活躍のまち」構想づくりを行うとしています。

Q 防犯カメラ設置事業と、公用車へのドライブレコーダー設置状況は。

A 犯罪の抑止効果のため防犯カメラ4基を主要道路の交差点に設置する。ドライブレコーダーは、「たまりん」には設置しているが、今後は公用車への設置も検討したい。

Q 消防車両整備事業では、どんな消防車の入れかえを行うのか。

A 第1分団の消防ポンプ自動車を、900リットル程度のタンクを積んだ消防ポンプ自動車に入れかえを行う。

Q リサイクルセンターでの木質ごみやガラス陶磁器くずの扱いは新年度はどのようなものか。

A これまでリサイクルできないガラス陶磁器くずは埋め立て処分していたが、新年度からは資源化しリサイクルする。また木質ごみも燃料化を行い、リサイクル率の向上を図る。

Q 公共施設等総合管理計画策定事業とはどんな事業か。

A 公共施設の更新・統廃合・長寿命化を計画的に行い、財政負担の軽減・平準化と適正配置を図るために計画を策定する。

新年度事業への
質疑が盛りだくさん!!
その一部を掲載して
います。



Q ぐるっとたまむら周遊事業は、どんなことを行うのか。また委託料100万円とは。

A 「道の駅」を拠点に低速電動バスでまちなか等の観光ルートを運行し、交流人口の増加を図りたい。100万円は主に電動バスを運転する委託料である。

Q ふるさと納税の見通しと、新たな町の特産品づくりへの取り組みは。

A 寄附額の見込みは2400万円とした。現在、食肉卸売市場の肉を寄附額の3割相当を贈っているが、今後は新たな特産品も検討していく。

Q ※5ページ参照 「玉村町版生涯活躍のまち」構想策定事業とはどんな事業か。

A 本町の子育て環境や自然環境を生かし、移住者が集まる「生涯活躍のまち」を実現するための「玉村町版CCRC」構想を策定する。
※5ページ参照